

この広報紙は、北九州市教育委員会の施策や事業、各学校の取組を広く皆様に知っていただき、本市教育行政への理解と関心を深めるとともに、学校活動や行事へ参加していただくきっかけとなればとの思いから作成したものです。

未来をひらく

北九州市生涯学習推進計画

教育委員会では、本年7月、新たに「北九州市生涯学習推進計画」を市民が学び、つどい、輝くまち、北九州市をめざしてを策定し、平成27年度までの5か年間で、「学びの風土（環境）づくり」「ひとづくり」「地域づくり」「体制づくり」「ネットワークづくり」の5つの視点を基に、生涯学習活動を推進することとしています。

その中で、「学校教育、家庭教育への支援や学校、家庭、地域の連携強化」を施策の一つに掲げ、すべての教育の出発点である家庭の教育力の向上を目指します。

●家庭教育支援の充実

PTAや企業などと連携して、北九州市子どもを育てる10か条の普及促進や家庭教育学習級の充実を図るとともに、家庭教育リフレット「きほんのき」の発行や、関係部



●学校との連携促進

局と連携した子育てネットワークの構築などにより、家庭教育の重要性の啓発を推進し、家庭教育の支援を充実します。

企業や大学などを含め、北九州市がもつ地域の力や教育力を最大限に活かして、学校支援地域本部事業の推進やスクールヘルパーの配置など多様な活動を展開することにより、地域の学校教育への参画を促進します。あわせて、地域の身近な公共施設として、学校教育に支障のない範囲で学校施設の開放を推進します。

北九州市子ども読書プラン

子どもがいろいろな本と出会うことは、子どもの成長や発達にとっても大切です。

教育委員会では、家庭・地域・学校・市立図書館等が連携して子どもの読書活動を推進する「北九州市子ども読書プラン」を策定しました。このプランでは、「読書好きな子ども日本一」を目指して、成長段階に応じた重点的な取組を定めています。

●読書が楽しいと実感できる環境づくりを

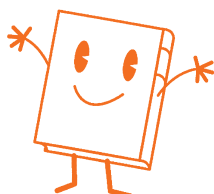
教育委員会では、毎月23日を「ノーテレビ・ノーゲーム・読書の日」と定め、子どもの読書習慣の定着を目指しています。

●地域では

市立図書館や市民センター等では、ボランティアの協力により絵本などの読み聞かせを実施しています。読み聞かせは、子どもの

●家庭では

まず、家庭で読書をする機会を設けましょう。家族で同じ本を読み、感想などを話し合う家読（うちどく）は、読書習慣が身に付き、家族のコミュニケーションが豊かになるという効果があります。



子どもが読書に親しむためには、学校だけでなく家庭や地域が一体となって、本が身近にある環境を作ることが必要です。

●学校では

聞く力や想像する力を育てます。

全ての小・中・高等学校では、10分間読書を一層推進するとともに、利用しやすい学校図書館の環境づくりに取り組んでいます。

●中央図書館等では

赤ちゃんが生まれた全ての家庭に絵本を贈る「ブックスタート事業」や学校での読書活動推進のリーダーを育てる「子ども司書養成講座」に取り組んでいます。

●読書好きな子ども日本一を目指して

読書好きな子どもは、読書を通じて幅広い知識を習得するだけでなく、考える習慣や感動する力など、よりよく生きるためのさまざまな力を身に付けます。家庭・地域・学校・市立図書館などが一体となって、子どもの読書活動を推進していきましょう。

●地域での体験活動の促進

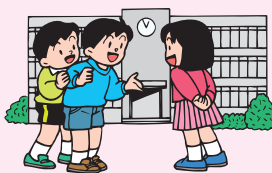
市民センターや地域、青少年育成団体等と連携し、地域・子ども交流事業や、子ども会等地域活動推進事業などの異学年交流や自然体験、生活体験の場を充実するとともに、学校、家庭、地域が連携、協力した青少年育成、教育活動を推進します。



35人以下学級を小学校3年生へ拡大

本市では、いわゆる「小1プロブレム」や「中1ギャップ」といった問題に対応し、小学校ないし中学校生活に円滑なじめるよう、生活習慣や規範意識などの指導を行う観点から、小学校1・2年生及び中学校1年生で35人以下学級を実施しています。

これまでの35人以下学級の成果を踏まえ、教員が子ども一人一人と向き合う時間を確保し、きめ細かで質の高い教育を行うことで、基礎・基本の確実な定着、確かな学力の向上を図るため、平成24年度から小学校3年生に35人以下学級を拡大します。



～夏休みに親子で取り組もう 正しい生活リズムと読書～ 「早寝・早起き・朝ごはん・読書」カードへの取組を表彰

平成23年11月5日（土）、ウェルとばた大ホールで、「子どもの読書活動推進フォーラム」を開催しました。

この中で「早寝・早起き・朝ごはん・読書」カードへの取組結果が非常に優秀な子どもたち21名と5家族及び18の幼稚園・学校を表彰しました。受賞者の皆さん、おめでとうございます。



教育の現場から

第2回

学校・家庭・地域を挙げた重点取組



教育委員会では、「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」に、「あいさつ」、「読書」、「元気（食育・体育）」、「スクールヘルパー」をキーワードにした具体的で分かりやすい4つの重点取組を掲げています。

これは、子どもの「意欲」や「生活習慣（学習習慣等）」の課題に対して、学校、家庭、地域が総がかりで取り組むことによって、「子どもの教育」に対する満足度を高め、市民参画を進めたいと考えたからです。

今回のテーマである、このプランの4つの取組について、積極的に実践している学校を紹介いたします。



あやめが丘小学校

戸畑区

あいさつは、相手の目を見て、心を込めて

本校は、平成19年度から社会科の学習と関連付けて「空き缶の回収」「み拾い」を中心に資源回収や環境保全に取り組んでいます。あいさつ運動については、環境委員会児童が、毎週水曜日の朝、始業前の空き缶回収時と第一金曜日のごみ回収時に、空き缶やごみを持ってきた児童に声をそろえて、元気よくあいさつを交わしています。

給食時間には、「あいさつは、相手の目を見て、心を込めて」と、放送委員会の児童が全校児童に毎日語りかけています。この地道なあいさつ運動により、校内においては、きちんと自分から相手の目を見てあいさつする習慣が身に付いています。

地域の方々をはじめ、来校されるお客様からも、「挨拶を進んでする子が多いですね」と、お褒めの言葉をいただくことがあります。



湯川中学校

小倉南区

子どもの読書活動の推進

平成22年度より、「未来をひらく学校づくり支援事業」を活用し、学校図書館の施設・設備、蔵書・読書環境の充実を図るとともに、「学校支援地域本部事業」で募集したブックヘルパー（地域人材・保護者）の協力を得て、読書活動を推進しています。その結果、学校図書館の常時開館の実施や平均読書冊数の増加などの成果が見られました。

本年度は、「学校における読書活動推進モデル事業」のモデル校に指定され、学校図書館職員が湯川中学校区に配置されました。学校図書館職員、学校図書館担当教諭、図書委員の生徒、ブックヘルパーが連携して読書活動を推進する仕組みが整い、読書好きな生徒が育っています。



八児中学校

八幡西区

「食」のこころを耕す体験活動

八児中学校では、「土に触れ・人に触れ・心を耕す」体験学習に取り組んでいます。一つ目は「稲作体験学習」で、田植えから収穫までを体験し、作る喜びや苦勞を味わいます。もう一つは「農園活動」で、校内の農園で大根や芋などの野菜を育てています。その収穫物で餅つきや豚汁作りをし、地域の方々と共に「収穫祭」が毎年楽しみな行事です。

このような体験を通して、生徒は自然の恵みに感謝することを学んでおり、給食の残食はほとんどありません。今後もこうした「食」のこころを耕す体験活動を続けていきたいと思っています。



このコーナーでは、毎回テーマに沿って、市内小中学校での特色ある取組についてご紹介します。各校の先生と子どもたちの生き生きとした姿を、どうぞ見守ってくださるよう、ご理解とご支援をお願いします。

大里柳小学校

門司区

子どもの教育を支える スクールヘルパー

本校は、校舎全面建て替えのため、現在仮設校舎で過ごしています。一番心配したことは、児童の安全を守ることです。現在、保護者・地域の方など26名の方が安全スクールヘルパーとして活動されています。仮設校舎には運動場がないため、隣接する大里公園の一部を貸していただき、中休みと昼休みに、児童が遊べるようにしていますが、その見守りと校内の見回りをいただいています。また、特別支援学級のスクールヘルパーにも7名の方が登録され、児童の学校生活の手伝いをしていただいています。教育支援のスクールヘルパーとして「虹の会」の8名の方が、月に一度児童に読み聞かせなどをしてくださっています。まさにスクールヘルパーの方々には、様々な面で、本校の教育活動をしっかりと支えていただいています。



お知らせ

教育委員会の事務の 管理及び執行の状況の 点検及び評価

教育委員会では、「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」等に掲載された施策の進捗状況について、毎年、点検及び評価を行い、その結果を議会に報告するとともに、市のホームページで公表しています。

点検・評価報告書の内容

報告書には、平成22年度における次の内容を主に記載しています。この機会に、ぜひご覧ください。

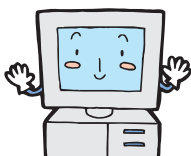
- ▼教育委員会の活動状況
- ▼4つの重点取組「あいさつ、読書、元気（食育・体育）、スクールヘルパー」の進捗状況
- ▼「心の育ちの推進」など13施策の進捗状況
- ▼学識経験者の意見 など

教育委員会では、教育プランの基本方針「教育日本一」を実感できる環境づくりを目指し、さまざまな施策に取り組んでいます。一方で、毎年、事務の改善なども進めています。

今後とも、教育行政の執行状況を教育委員会自身が事後に検証するとともに、教育委員会が地域住民の皆様に対して説明責任を果たしていきたいと考えています。

※点検・評価の詳細については、市ホームページ（教育委員会企画課）をご覧ください。

いろいろな取組を掲載しています



北九州 子どもの未来をひらく教育セミナー

このセミナーは、平成21年11月に策定された「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」に基づく、本市教育施策の一端を、広く市民の皆様へ発信することを目的に「北九州市音読暗唱教育賞」の表彰式のほか、以下の構成で開催しました。(平成23年8月18日(木) 会場:ウェルとばた)

環境モデル都市「グリーンフロンティア・子どもサミット」

本市の環境に関連する施策として、「環境賞」と「環境体験科」の紹介、(公財)北九州活性化協議会もったいない総研が募集した「もったいない」作文の市長賞に入賞した各小中学校の児童生徒の作文朗読を行いました。

次に「環境首都! 私たちの実践」では、昨年度の「環境賞」の受賞校である市丸小学校、中原小学校、富野中学校と環境教育推進指定校である曾根東小学校、早鞆中学校がそれぞれ環境保全にかかわる取組について実践発表を行いました。

また、九州工業大学教授 白井義人先生からは、「持続可能な社会をめざして～地域の特性と私たちの役割～」という演題で講演していただきました。

なお本年度も、「環境教育情報提供コーナー」を設置し、学校・園での環境教育にかかわる取組を広く普及するために、環境局や企業等と学校が連携して行っている取組の一端をパネルに展示しました。

ご来場された多くの方々へ、各団体のエコ活動の取組を熱心にご覧になっていました。



参加者の声

■教職員 各学校の環境活動の取組を知り、環境モデル都市である北九州市を市民一人一人が守っていかうとする努力の積み重ねが大切であると改めて思いました。私の学級でもできることを話し合い、一つでも続けられることを考えて実践していきたいと強く思いました。楽しみながら続けたことが結果的に環境を守る活動になるということが、持続可能な社会の実現のためにも必要だと思いました。

小中一貫・連携教育シンポジウム

教育委員会では、「義務教育9年間で子どもを育てるという一貫した考え方ももち、小・中学校が積極的に連携して取り組む教育」を「小中一貫・連携教育」と定義し、その推進を図っています。昨年度から、本市にふさわしい小中一貫・連携教育のあり方を検討する「小中一貫・連携教育モデル推進事業」を立ち上げ、平成25年度より市内全ての小・中学校で取り組むことを目指しています。

当日のシンポジウムは、二部構成で進められ、第一部では、白銀中学校区(白銀中学校・中島小学校・貴船小学校)と穴生中学校区(穴生中学校・青山小学校・穴生小学校・竹末小学校・萩原小学校)による事例発表を行いました。

白銀中学校区の発表では、「中1ギャップの解消」に留まらず、学力向上、体力向上、思いやりの心の育成等の視点をもった取組が紹介され、穴生中学校区の発表では、児童生徒の自尊感情とセルフイメージを高める取組が紹介されました。

いずれの中学校区の取組も、児童生徒の視点に立って、小学校から中学校

に向けてスムーズな接続ができるよう取組の工夫が見られました。また、児童生徒の交流だけではなく、教職員の交流、地域の方々との連携にも素晴らしい見られました。

第二部では、福岡教育大学教授 大坪靖直先生をコーディネーターに迎え、「パネルディスカッション」を行いました。パネリストとして保護者の代表者やモデル校区の校長先生方、また、ゲストとして、穴生中学校の生徒の皆さんも参加しました。

それぞれの立場で、これまでの取組や今後の取組の方向性を語っていただき、これから取り組もうとする学校の先生方にも大変参考になる内容でした。

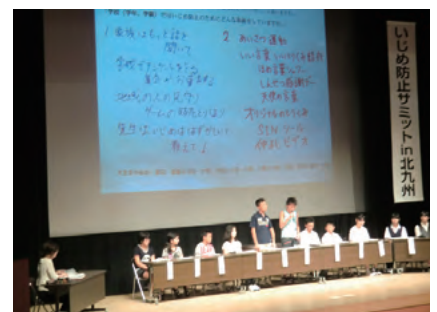


いじめ防止サミット in 北九州

第一部では、小学校15校、中学校15校の63名の児童生徒が6グループに分かれ、いじめ問題に対して、各グループのテーマに沿ってグループ討議を行いました。そこでは、いじめ防止に向けて自分の思いや考え、学校での取組等の意見交換を行いました。

第二部では、北九州少年サポートセンター堀井智帆氏の司会で全体会を行い、各グループの代表2名がグループ討議で話し合った内容の発表や会場の児童生徒、教職員、保護者等を交えての意見交換を行いました。

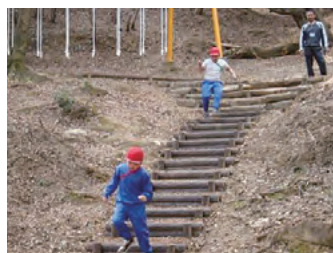
児童生徒の思いや考えを受けて、参加している児童生徒や教職員、スクールソーシャルワーカーから積極的な意見が出されるなど、いじめ防止に向けての取組を考えるよい機会となりました。



参加者の声

■教職員 子どもたちの生の声を聞くことができ、教師として考えさせられました。子どもたちは、自分の言葉を聞いてほしいんだなと思いました。一人の大人として、子どもの心を温かく包み込むことができるように言葉をかけたり、関係をつくったり、これからも努力していきたいと思いました。

■保護者 まず、皆思っていた以上に、しっかり考え、自分の考えや意見をもっているんだなと感心しました。子どもからの生の声が聞けて本当に良かったです。親として参考になることがありました。やはり、家庭内での親のかかわりが大事なのかなと思いました。学校・家庭・地域どれも大事で、それが本当にうまく連携し、動いていけるように、私も自分ができることをしたいと思いました。



江川小学校の遊具

とつながっています。今では、児童が「平和ヶ丘」を活用することで、自然に触れ、自然を愛する心を育み、体を動かすことの喜びを感じながら、たくましい体をつくることへ

より既存器具の修繕や新規アスレチックの設置、遊歩道の整備、剪定及び植樹等を行い、児童が自然に親しみながら「体力アップ」につながる立体運動場として再生しました。

江川小学校は、若松区の西北に位置した豊かな学校です。本校には、地域や保護者がこれまで大切に守り続けてきた立体運動場「平和ヶ丘」がありますが、アスレチック施設の傷みが激しく十分に機能できていない状況でした。そのため、本事業により既存器具の修繕や新規アスレチックの設置、遊歩道の整備、剪定及び植樹等を行い、児童が自然に親しみながら「体力アップ」につながる立体運動場として再生しました。

「自然に親しみ体力アップ」

江川小学校

平成22年度の実施事例紹介

教育委員会では、平成22年度から各学校・園の創意工夫による「特色ある学校づくり」を支援するため、各学校・園が独自に企画した事業計画のうち、教育的効果がより見込まれる事業を採択して支援しています。



未来をひらく
学校づくり
支援事業
提案型学校づくり推進事業

新年のごあいさつ

北九州市教育委員会教育委員長

川原 房榮



新年あけまして

おめでとございませう。

平成24年の新春にあたり、市民の皆様のご多幸とご健勝を心からお祈り申し上げます。また、この場をお借りして、これまで本市教育委員会に賜りました温かいご支援やご協力に、対し厚く御礼を申し上げます。

さて、教育委員会では、平成21年11月に策定した「北九州市子ども未来をひらく教育プラン」に基づき、「思いやりの心をもつ、自立した子どもを育てる」ことを目標に、「教育日本一」を実感できる環境づくりを基本方針とし、着実に諸施策を推進しています。

本年は、このプランの実現に向け、「小学校3年生への35人以下学級の拡充」や「経済界との連携による学校支援モデル事業」、「学校における読書活動推進モデル事業」、「東部地域における特別支援学校の整備」などに取り組みこととしています。

子どもたちが生き生きと学べる教育環境を整えていくためには、学校、家庭、地域、行政がそれぞれの役割を担いつつ、真に連携・協力しながら取り組んでいくことが何よりも必要です。子どもの教育をめぐる現状にはさまざまな課題がありますが、次代を担う子どもたちの教育を充実したものとするため、本年も組織を挙げ全力で取り組んでまいります。

本年も、皆様の相変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のごあいさつといたします。

教育委員行政視察報告

教育委員会では、本市の教育行政の充実に向けた参考とするため、先進的な取組を行っている他自治体等への視察を行っています。

今回は、平成23年11月7日・8日の2日間の日程で、「東京都立中野特別支援学校」、「葛飾区立中央図書館」、「武蔵村山市立小中一貫校村山学園」の関東地区の3教育施設を、吉田ゆかり委員とシヤルマ直美委員が訪れました。

中野特別支援学校は、障害のある児童生徒に対する先進的な教育に、いち早く取り組んでいる学校です。シヤルマ委員は、「生徒の雇用や企業での実習の受け入れについて積極的な働きかけを行ったり、企業の方に就労支援アドバイザーになったり、企業の方にお話を、本市特別支援教育推進のための参考となった。」との感想でした。また、JR及び私鉄の駅のそばに立地する中央図書館は、利用者の生涯教育の充実のための、斬新な仕組みが随所に見られる施設でした。吉田委員からは「ICTタグ導入による自動貸出・返却により、業務の効率化と利便性が考慮されていた。低い書架で広々とした館内は文化の香りに満ちて



視察を行う吉田委員(右)とシヤルマ委員(葛飾区立中央図書館)

おり、北九州市の子どもたちも是非このような施設で図書に親しみ夢を広げて欲しいと感じた。」とのことでした。

小中一貫校村山学園は、隣接する既存の小学校と中学校の校舎を一体化させ、平成22年に開校したばかりの学校です。本市でも現在、小中一貫・連携教育に関するモデル事業を実施しており、村山学園の取組は大変参考になるものでした。

今回の視察における貴重な体験や、得られた情報などを、今後、本市の教育行政に大いに活かしてまいります。



説明を受ける両委員

市立学校(園)の

敷地内禁煙実施について

子どもたちへの受動喫煙防止の徹底及び健康教育・喫煙防止教育をより一層効果的なものにするため、平成22年度より学校(園)敷地内禁煙を実施しています。

教職員だけでなく、学校(園)を訪れた保護者、地域関係者、民間事業者等のすべての人を対象としています。

入学式、運動会・体育祭、学習発表会、学校開放週間、卒業式などの学校行事及び学校施設開放事業でご来校いただく際には、この趣旨をご理解いただき、敷地内禁煙へのご協力をお願いいたします。



北九州市立長崎街道木屋瀬宿記念館 みちの郷土史料館 常設展

「世界記憶遺産 山本作兵衛 炭鉱記録画」のご案内

炭鉱記録画や日記など約700点が世界記憶遺産に登録された山本作兵衛氏の作品4点を、常設展「木屋瀬炭鉱」のコーナーに展示しています。

山本作兵衛氏は、幼い頃から筑豊の炭鉱を渡り歩き、60代半ばから自らの経験や伝聞を基に記録画を描き始めました。絵に解説文を組み合わせるといった独特の手法は、採炭の傍らつけていた日記により生まれたそうです。

当館が保管している作品は、全て地域の方から寄贈されたものです。今回の世界記憶遺産の登録を受け、常設展に追加展示という形で作品の公開を行っています。作兵衛氏がよく描いたとされる炭鉱内の絵や遠賀川を描いたものがあります。

山本作兵衛氏に関連した書籍も数点ございますので、ぜひご来館ください。

開館時間 9:00~17:30(入館は17:00まで) 休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)・年末年始



幼稚園・保育所の園庭芝生化モデル事業を始めました

跳んだりねたり元気な子どもたちを育てるために、市内7箇所の幼稚園・保育所の園庭に芝生を植える事業をモデル的に始めました。

園庭を覆う芝生の上を、園児たちが元気いっぱい走り回っています。



ワーク・ライフ・バランス、知っていますか

北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会と北九州市では、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の意義や必要性を広く市民や企業のみなさんに理解していただくため、11月の推進月間にキャンペーンを行いました。



11月2日には、料理研究家コウ ケンテツさんが「キッチンから始まる家族の絆」をテーマに、木屋瀬小学校で特別教室を行い、6年生56人が家族みんなで食べる家庭料理の大切さについて考えました。

仕事中心になりがちなお父さんたちも、働き方を見直して学校行事や子育て支援イベントなどに積極的に参加し、仕事も生活も充実した毎日を過ごしませんか。



家庭における

インフルエンザ予防 についてのお願い

通常インフルエンザは、毎年、秋以降に流行します。

インフルエンザは、普通の風邪と違って注意が必要な感染症です。小さな子どもや高齢の方、慢性疾患のある方などは、特に注意が必要です。

日常生活でできる予防方法についてご家庭でも実行していただき、「かかったかな」と思ったら早めの受診をお願いいたします。

- (1) 栄養と休養を十分にとる。
体力をつけ、抵抗力を高めることで感染しにくくなります。
- (2) 人ごみを避ける。
病原体であるウイルスを寄せ付けないようにしましょう。
- (3) 適度な温度、湿度を保つ。
ウイルスは低温、低湿を好み、乾燥しているとウイルスが長時間空气中を漂ってしまいます。
- (4) 外出後の手洗いとうがいの励行。
手洗いは接触による感染を、うがいはのどの乾燥を防ぎます。手洗いは、石鹸を使って15秒以上かけて洗いましょう。
- (5) 咳エチケット(マスクの着用)の習慣化。
咳やくしゃみのしぶきは、約2メートル飛ぶと言われています。感染しないように・させないように、周囲への大切なエチケットです。

